平成30年度

精神科退院患者調査結果

令和元年５月

大阪府・大阪市・堺市

　Ⅰ　退院患者調査結果の概要

１　調査の目的

　　精神科病院からの退院促進を進めるにあたり、地域でのサポート体制や基盤整備の検討に資する

ため、精神科病院から退院する患者の行先等を調査する。

２　対象者と調査方法

〇調査の対象

　平成30年9月1日～平成30年11月30日の間に、大阪府内（政令指定都市を含む）の

精神科病床を有する医療機関から退院した患者全員。

〇調査の実施方法

大阪府内（政令指定都市を含む）の精神科病床を有する医療機関（6１病院）に調査票を送付

し、すべての病院から回答（6,718票）を得た。

３　調査項目

　　①年齢区分　②疾患名区分　③今回の入院日　④今回の退院日　⑤入院前住所地

⑥退院後住所地　⑦入院前の場所　⑧本人が希望していた退院先　⑨実際の退院後の行先

Ⅱ　退院患者調査結果（単純集計）

　１　年齢区分

* 入院期間が1年以上の患者の66.4%（508人）が65歳以上の患者である。
* 50歳未満の患者では、入院期間1年未満での退院が9割を超える。



２　入院期間

* + 退院患者の57.9％（3,888人）が  
    ３か月未満、81.5％（5,473人）が6か月未満、88.6％（5,953人）が1年未満で退院している。

〔参考〕第5期障がい福祉計画数値目標

入院後3か月時点での退院率：69％以上

入院後6か月時点での退院率：84％以上

入院後1年時点での退院率：90％以上



３　疾患名区分

* 疾患ごとの割合では、「症状性を含む器質性精神障害（F0）」と「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害（F2）」の患者のうち1年未満で退院した患者の割合はともに83.3％である。その他の疾患は概ね90％を超えている。



Ⅲ　退院患者調査結果（クロス集計）

　１　入院前の場所×退院後の行先　（割合は転院・死亡を除く）

* + 「障がい者支援施設」「救護施設」「障がい者向けグループホーム」「有料老人ホーム」では、90％以上の患者が入院前の場所と同じ場所に退院している。
  + 入院前に「障がい者向けグループホーム」に入居していた患者は126人。そのうち109人は「障がい者向けグループホーム」に退院している。

〔全体〕



* 入院期間1年未満では、「障がい者支援施設」「救護施設」「障がい者向けグループホーム」「有料老人ホーム」「家族との同居」で、入院前の場所と同じ場所に退院する患者の割合が9割以上である。
* 入院期間1年以上になると、入院前の場所に戻る患者の割合が低くなる。入院前と同じく「単身」で退院した患者は38.7％、入院前と同じく「家族との同居」で退院した患者は46.5％と、１年未満の患者に比べて低くなっている。

〔入院期間1年未満〕



〔入院期間1年以上〕



* 65歳未満では、「障がい者支援施設」「特別養護老人ホーム」「家族との同居」「救護施設」「障がい者向けグループホーム」「有料老人ホーム」「サービス付き高齢者住宅」「単身」で、入院前の場所と同じ場所に退院する患者の割合が9割以上である。
* 65歳以上では、「自宅」から「自宅」への退院の割合は低くなる。入院前と同じく「単身」で退院した患者は65.1％、入院前と同じく「家族との同居」で退院した患者は76.0％である。

〔65歳未満〕



〔65歳以上〕

２　退院後の行先×入院期間

* 1年未満で退院した患者（5,953人）のうち3,820人（64.2％）が「自宅」へ退院、「施設」も含めると4,972人（83.5％）が「自宅」や施設などへ退院している。
* １年以上５年未満の入院期間で退院した511人のうち、「自宅」に退院した患者は67人（13.1％）で、入院期間が長くなるほど、「自宅」への退院の割合は低くなる。

〔全体〕



* 65歳未満で入院期間1年未満の患者のうち79.7％（2,860人）が「自宅」に退院しているが、入院期間が1年以上になるとその割合が低くなる。

「転院」する患者が、5年以上10年未満の入院期間になると54.6％、10年以上になると74.5％と高い割合になる。

* 65歳以上で入院期間1年未満の患者のうち40.6％（960人）が「自宅」に退院している。1年未満に比べて1年以上5年未満の入院の患者では「他科への転院」が倍増している（15.6％ → 31.7％）。

〔65歳未満〕



〔65歳以上〕



３　入院前の場所　→　本人が希望していた退院先　→　実際の退院後の行先

〔全体（本人の希望が不明の702名を除く6,016人）〕

* 退院後、入院前の場所に戻ることを希望する患者の割合が高い。
* 入院前と同じく「単身」を希望する患者は85.2％（1,492人）、入院前と同じく「家族との同居」を希望する患者は89.9％（2,745人）である。
* 「障がい者支援施設」「救護施設」「養護老人ホーム」「障がい者向けグループホーム」から入院した患者の9割以上が同じ場所への退院を希望している。

入院前の場所×本人が希望していた退院先



* 「単身」を希望していた患者の89.6％（1,347人）が希望通り退院をした。また、「家族との同居」を希望していた患者の93.0％（2,438人）が希望通り退院をした。
* 「障がい者向けグループホーム」を希望した161人のうち90.7％（146人）は「障がい者向けグループホーム」へ希望通り退院をした。

本人が希望していた退院先×実際の退院後の行先（転院・死亡を除く）



〔入院期間1年以上（本人の希望が不明の224人を除く541人）〕

* 入院前と同じく「単身」での退院を希望する患者は46.7％（64人）、入院前と同じく「家族との同居」を希望する患者は50.4％（129人）と全体と比較すると割合が低い。
* 「障がい者向けグループホーム」を希望する患者は30人で全体の5.5％。そのうち、入院前は「自宅」で生活していた患者が15人（「単身」３人、「家族同居」12人）と半数を占める。

入院前の場所×本人が希望していた退院先



* 111人が「自宅」への退院を希望し、そのうち77人（69.4％）が希望通り退院した。
* 「宿泊型自立訓練事業所」「障がい者支援施設」「特別養護老人ホーム」「介護老人保健施設」へは全員が希望通り退院し、「有料老人ホーム」や「サービス付き高齢者住宅」へは9割以上の患者が希望通り退院した。

本人が希望していた退院先×実際の退院後の行先（転院・死亡を除く）



４　入院前住所地（圏域）×退院後住所地（圏域）

* 全体では8割以上の患者が入院前の住所地の圏域と同じ圏域に退院している。
* 入院期間が１年以上では、入院前と同じ圏域へ退院する割合が減っている。

〔全体（死亡を除く）〕



〔入院期間1年以上（死亡を除く）〕



Ⅳ　過去の退院患者調査との比較《入院期間1年以上の患者の退院先》

１年以上の長期入院者の退院先を、過去に大阪府が実施した退院患者調査（平成18年、26年に実施）と比較すると、65歳未満、65歳以上ともに自宅退院が減少し、高齢者福祉関係の施設や住居に退院する患者が増加している。（転院・死亡を除く。次ページの表 割合①で比較。）



